

めぐると、そこに非常に特徴的な橋がかかっているということになって、楽しい夢の町がつけられるんじゃないかなということで、できれば3つに錦帯橋のようなものをかけて、これは全国に売るので、余りにもちっけなことではやっぱりなかなか全国発信できないと思いますんで、これはあくまでも、私は最初から申し上げてるとおり夢でありますから、そういうものを研究して検討するというふうなことにさせていただきたいと思いますが、市長に最後にお聞きします。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** 錦帯橋と言われると、これは相当のあれですよ、それは夢があつていいわけですが、今、フットパス事業では、さっき建設課長が言いましたように、一番早く取り組んで一番先に整備して、なおかつもう少し今度は延長しようと。潜り橋といつても、飛び石を渡れるようなやつで、増水するときには消えちゃうんですが、そういったところまでは来たわけですから、これはしかし、あと待ってるところ結構あるんですよ。それは大江も天童もさらに村山も「はやぶさ」の方面だとか、この間、全国シンポジウムしましたら、「シンポジウムして長井ばっかりよくて、おれのところは」と言う人もいました、やっぱり来て。フットパスでやるかどうかは別にして、長井として夢を持っていくということについては、おっしゃるとおりだと思いますから、一つの事業として検討していくということは大切だろうと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 5番、佐々木謙二委員。

○**5番 佐々木謙二委員** ぜひ夢はいつかは実現する可能性もあるわけでございますから、夢は大きく持って、楽しく持って、これからまちづくりに努めていただきたいなというふうにお願いをしたいと思います。

通告ですと、フラワー長井線の支援について取り上げておりますけれども、私の持ち時間、

それに入りますとちょっと超過しますので、質問はこれで終わらせていただきます。大変ご清聴いただきましてありがとうございます。

## 蒲生光男委員の総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 次に、順位3番、議席番号9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 私の通告に申し上げております2点についてお聞かせをいただきたいというふうに思っています。

特に第1点の黒獅子の関係ですが、今回新しくコースを変えたと、趣を変えて実施されて大変好評だったということと、商工観光課長が今度新しく4月から就任されましたね。商工観光行政の基本たるやについて確認しておきたいということでお聞かせをいただきたいと思います。

まず、ことし、黒獅子まつりですね、新聞によりますと6万5,000人の観衆が出たという、長井市民の約2倍強の皆さんが、本当だとすれば、見にいらしたということはこれは大変なすばらしいことだと思うんですよ。

市長として、まず総括的にはどうですか、これは大変よかったと思うんですが、よかった面、あるいはまた反省する面がありましたらお答えいただきたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** まず、一言にして言えば大変よかったと。それはコースも変える、それから栈敷をつくったりして、準備も新たにやる。そういった面で、関係した、参加された皆さんは、特に演じられた皆さんは大変だったろうと思いますね。今までどおりというようなよりはるかに不安も抱え、いろんな面で準備もしなければいけないという意味では大変だったろうと思いますが、この皆さんが本当に頑張ってい

+

ただいたと。

フットパスのおとといの野外パーティーもそうですが、あるいはランタン設置もそうですが、長井市民の皆さんというのは、本当にボランティア精神で各団体ともまずその成功に向けて全力を挙げていただいたということに心から感謝をしたいし、大変よかった、うれしいというふうに思います。

それは天気にも恵まれたということもありますが、課題はあると思うんですよ、これから。それは反省点は反省点であって、一つずつやっぱり前進していけばいいのではないかなというふうに思っておりますので、しっかりとまた課題を出していただいて、次の年はさらによくなるように努力をしていただけるものだというふうに思っています。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** あそこの駐車場を整備していただいて、若い人があそこでバスケットをしたり、大変有効利用されていると思うんですよ。獅子舞をするにしても、イベント会場には打ってつけの場所だと思うんですが、ただ、宮のお獅子様があそこ、皇太神社の中を通ってくるというコースについてはどうだったのかなと私なりに思うんですけどね、そういう問題点なんか指摘なかったですか。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** 事務局と関係者等は今、反省点も洗い出しながらやっていると思います。いずれやっぱりそういうのを集めて、いろんな意見もあったと思いますし、直した方がいいところは直していくということで対処していくと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 今回の栈敷席を設けられまして、買う人いるのかなって変な心配をしております、当日一生懸命売っていただいて何とか完売したとおっしゃってございましたけれど

も、これがどういう発想でこうなったのかわかりませんが、これはこれで一つの試行だったのかなと思いますね。ただ、栈敷席、前の方と後ろの方とこうあったんですが、どうも後ろの方が値段が安くて見やすかったんじゃないかという感じもしますので、これは座った方が一番よくわかっていられると思いますけど、それはそれでこれからの反省材料につなげていければいいのかなと。やっぱりいろんな工夫をして、その黒獅子をもっと売っていくということはとても大事なことでと思います。これだけの観光素材を今までしなかったことが不思議なぐらいで、やっぱり若い人がこれ中心になってここまでやってくれたということが大変な成果だったと思います。

栈敷席はともかくとして、ただ私が非常に気になっているのは、これは前回も申し上げましたけども、例えば黒獅子まつりに行きたくても行けないひと、例えば障害を持ってる方、例えば車いすの生活を余儀なくされている方、こういった方に見せられる場所がこのコースの中にどこにもないということについては、どうだったのかなと。どっか例えば、今回は2つの中心、一番最後のお獅子様が上るあそこの駐車場ですよ、もう1カ所は錦屋のあそこの十字路、ここが一つのメインだったと思うんですけども、やっぱりそういったところにそういう障害者でも見れる場所をやはり設定していったらどうかと私は強く感じて見ていたんですが、その点いかがですか。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** おっしゃるとおりだと思います。そこで、その2つのうちで整備したやっぱりグラウンドの方が体に障害をお持ちの方でも安全だと思いますので、錦屋の十字路はやっぱり相当混雑しますから、このグラウンドの方に来年はその一角を設けさせていただくと。やっぱりお年寄りになって施設なんかに入っておられる

方だって、そういうことだろうと思いますから、そういう配慮をしていくということが大切だと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 小さい子供さんはお獅子様好きですよ、本当に。私も好きですが、楽しみがない昔は朝方まで獅子舞をして、そのまま朝草刈りに行ったなんて、そういう先輩の話も聞きますよ。ですから今、体悪くして施設に入所されている方も、この笛、太鼓、獅子の歯打ちの音を聞けば元気が出るかもしれません。そういう配慮をしていただければありがたいなというふうに思います。

商工観光課長にお聞きいたしますが、3年前、地場産業振興センターの事務局長になられまして、ちょうど黒獅子まつりが始まる前に、あそこに飾ってありました、いわゆるかさ、ちょうちんですね、これが突然消えました。黒獅子まつりが始まるのに何でどこへ行ったんだろうなと思ってお聞きしましたところ、「いや、撤去しました」という話だったんですね。何でだと。そうしましたら、あなたは、「私はいろいろやりたいことがいっぱいあるんだ」というお話だったんですが、やりたいこといっぱい実現していただくのは構わないわけですが、「それは黒獅子まつりが終わってからなさったらどうですか」ということで、またあそこに出していただきました。

やっぱり黒獅子まつりのシンボルというのは、昔から、かがり火だったり、ほのかに明かりをともしちょうちんだったり、かさだったり、そういうのがあるんじゃないかなと私は思うんですが、なぜそんなふうになったのか、そしてまた、事務局長の3年間時代、やりたいことって一体何があってどのように実現されてきたのか、余り長くならないように簡単に説明をお願いします。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** お答えいたします。

私が地場産センター時代に黒獅子のご神灯等々を撤去したといますか、わきに外させていただいたというような状況がございます。ただ、ちょっと私、記憶が十分でなくて、それが黒獅子まつりのときだったのかどうかというのはちょっと記憶がないんでありますが、それが黒獅子まつりの時期であったとすれば、大変な判断ミスだったなというふうに考えてございます。

それから、いろいろやりたいことがあるというふうなお話をさせていただいたということでございますが、その際に私が多分、たしか申し上げたかったことは、地場産センター、とりわけ物産館のディスプレイといますか、店構えといますか、そういったものは季節的にリニューアルといますか、それぞれの季節に合わせてお客様をお迎えするというふうな形にしていかなければならないだろうというふうな考え方を持っておりまして、そんなふうなことを申し上げたかったというふうなことでございます。

それから、どのようなことをやりたかったのかというふうなことでございますが、まず、基礎の基礎でございますが、民間といますか、第三セクターであったとしても、民間としての組織の運営、とりわけ商売の基本というふうなものをやらなければいけないと、そういったふうな体質にしなければならないというふうなことで、売り上げの目標設定、それからそれぞれのキャンペーンですか、販促計画を立てると、それからディスプレイ、あるいはポップ等の飾りつけを行うと、そういったふうな組織にしないといけないというふうなことが1点であります。

それから、その販促計画に従った形のディスプレイ、お客様においでいただくような形の魅力ある入り口、あるいは中のレイアウト構成にしないといけないというふうなことが2点目で

+

ございます。

それから、販売の戦略といたしまして、その当時、考えてございましたのは、地場産の物産館の中の商品構成等を見ますと、やはりどうしても土産品というふうなことを中心にせざるを得ないというふうなことでございまして、その際に考えましたのは、関東致芳会、あるいは長井高校同窓会、あるいはインターネット等の、外に向けての情報発信、お客様獲得というふうな方向性が必要だろうというふうなことで、それを課題としてやらなければならないというふうなことでございまして。

なお、ちょうちん等との関連でいいますと、店のディスプレイ、あるいは商品のディスプレイというんですか、そういったふうなものにつきましては、平成16年度、座学の講習会をやりましたんですが、座学ではやっぱりだめだというふうなことで、17年度に、中小企業総合研究機構という地場産センターの指導機関みたいな組織がございまして、そちらの方から2泊ぐらい来ていただいて、職員を含めて研修をいたしました。その後、日本けん玉協会とおつき合いの中から女子美大の先生にもおいでいただきまして、実際のメインとなるところのレイアウト、あるいは色彩等を含めた講習というふうなことをやったところでございます。

最近ではといたしますか、17年度の後半ぐらいには職員の方でそれぞれの年間の目標計画を設定して、棚卸しの時期等を見ながら、大きなレイアウトの、季節に合ったレイアウトの変更等々をやるような状況になっていたというふうなことでございます。ただ、売り上げの方は必ずしもそれに見合った形にはならないんですが、組織の体制としてそういったふうな状況になったというふうなことでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 3年間でつまり実績は上がったと、こういうふうな理解してよろしいわ

けですか。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** 実績でございますが、収入関係といたしますか、事業関係で見ますと、ショッピング事業が平成14年から平成17年で約100万円ぐらいプラスになっております。それから事業開拓事業、物産館の売り上げ、それからその他の外販事業等を含めてですが、同じ14年から17年で65万円ぐらいプラスになっております。全体でいきますと160万円ぐらいプラスにはなっておりますが、現実的には実績が上がったぞというふうなところにはまだまだ言えるような数字ではないというふうに理解しております。

ただ、私の方でありがたかったのは、職員がよく頑張つて、とにかく少しでも売り上げを上げていこうと、お客様あるいは事業者の皆さんのお役に立とうというふうな気持ちになって取り組んでいただいたということが、ある意味では私にとってのとてもありがたいことでございました。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 今度、宇津木前福祉事務所長が向こうに出向かれたわけですね。何か彼は彼で、彼の持ち味を生かしたもので何かいろいろやっていたらっしゃるようですが、新しい地場産の事務局長にはどのような引き継ぎをなさってこられましたか。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** 引き継ぎ自体につきましては、かなり多岐にわたります。県との関係、あるいは今までの事業の積み残しの部分等々がありますわけで、それらを引き継ぎ書という形で引き継ぎをさせていただいたというところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 黒獅子まつりについて商工観光課長にお聞きしますが、もっと参加型の

イベントにできないかと、今は今でいいですよ、これは。今見るという方ですよ、見るだけでなくもっと参加できるようなものにできないかという声があります。例えばみこしのようなものであったりですね。これをいつの時点でどのように具体化していくかというのは別問題ですが、前那須課長にもそんなお話をしたことがあるんですけども、来年の黒獅子まつりの開催に向けて、ぜひそういったことも実現できるかどうかも含めて具体的に検討していったらどうかかなというふうに私思いますが、その点いかがですか。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** 全く同感でございます。たしかことしのお祭りの前日あたりですかね、前にファクスが届きまして、実は昨年度のお祭りの際に外のお客様が何かおみこしの中に入れさせてもらったかどうか、何かそれがとてもよかったというふうな、ことしはどうなんでしょうかなというふうな問い合わせがありました。

あともう一つは、黒獅子まつりがすばらしいのは、音であったり光であったり、あるいは動きであったり、それが実に郷愁を誘いながらも、かなりわくわくするような、その中に実際に入りたいというふうな衝動にからせるようなものが、ある意味では黒獅子まつりのすばらしいところかなというふうな感じがしております。

これからの世代の中で、団塊の世代の皆さん方がもしかするとそのお孫さんとかを連れてくるような時期もあろうかというふうな感じがいたします。そういったふうなときに、そういった外からおいでの方に楽しんでもらうというふうな意味も含めると、参加型のあり方というふうなものが必要だろうというふうに思います。

あと、今、おみこしというふうなお話が出されたわけなんですけど、観光協会の理事会の中での意見の中で、「中心商店街、中心の町場の部分でにぎわいどうだったんだろうか」というふ

うなことをご心配なさっております、その際に出されたのが、前段でというんですか、「夜の黒獅子まつりの本番の前におみこしを各商店街にリレーをするような形で登場させてはどうか」というふうなご意見もありました。

そんなふうな前向きな協会さんの方のご意見なども踏まえまして、参加型のお祭りのあり方をぜひ考えてみたいというふうに思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** お祭りが終わってから、皇太神社のお獅子様が帰るときに、県外から来たと思われる若い女性のグループと記念写真を撮っていたんですね。ところが、たまたま私そこに出くわしたんですが、小さいデジカメで撮ってるもんですから、撮った後確認してもみんなぼやけてて、全然撮れてなかったんですよ。「私の撮ったカメラでもしよければ」というふうに申しあげましたらば、連絡が来まして、CDに。

今回、我妻議員に委嘱状をいただきまして、観光協会の、「写真撮りをせえ」という委嘱状ですね。私と児玉補佐と宇津木さんと、那須さんもそうだったんですか。一生懸命撮ったんですが、なかなか動きのあるものを暗いところで撮るといのは大変なんですよ。100枚撮って、本当に10枚ぐらい、まあまあいいかなと思われる写真はそのぐらいしかありません。いい写真を残すというのは非常に大変なんですね。

たまたま福島から来た若い女性の皆さんは、非常にお獅子様が気に入っていたんですが、写真がうまくできなかったということで、よさそうなやつをCDに焼いて送ったんですよ。そして、「本当に福島からこの黒獅子まつりに来てよかった」というのがメールで返ってきたんですが、そういう一つ一つの積み重ねが、やっぱりこの黒獅子まつりのイベントをもっともっと大きくしていくんじゃないのかなというふう

+

に痛切に感じた次第なんですね。

お獅子様との記念写真のコーナーなんてできればいいんですが、これはなかなか難しいと思うんですよね。でも意識して何かそういうコーナーをもう一遍考えてみたらどうだろうか。お獅子様と一緒に、警護と一緒に写真を撮るとするのはなかなかできないので、そういうのもいいのかなというふうに思いますけど、市長、どうでしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** イベントでやっぱりそのスタート、黒獅子では黒獅子ですね、黒獅子とか警護の皆さんに、そういう人と記念写真を撮りたいというのは、どういうイベントでも非常に多いと思いますよね。だからそういったこともやっぱり一つの大きな検討課題だというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** そのほか商工観光行政全般については、さまざまあると思いますけども、商工観光課長は頭いいですからね、その能力は秀でたものがあると思うんですよ。ただ、商工観光課長として今一番求められているものは、私はもっと明るく明るく、努めて明るく振る舞われたらどうか。部下の皆さんは非常に頑張っておられますよ。ですので、課長みずから、物事言うにしても、打ちひしがれたようなしゃべり方じゃなくて、ぱっとう舞い出すような、努めてそうなさった方が長井市の商工観光行政にとってはプラスになるんじゃないかなと思いますが、そのことについてはいかがですか。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** ご指摘そのとおりでございます。

こういうふうに言うからだめなんです、ある意味ではそんなふうな任にたえられるかどうかですが、商業、工業、それから観光まで含めて、ある場合には長井市の外に対しまして、あ

るいは町の人に対しまして営業マンにならないといけないというふうな立場にあらうというふうに思います。

職員にも「私は性格を変えたい」というふうなことを、あすの朝、ミーティングでやろうかなというふうに思っております。

ただ、今の状況で考えますと、とにかく気持ちを合わせると、それぞれの機関、あるいは組織、団体、個人が力を合わせて一つの方向に向かうというふうなことが必要なんだろうというふうに思います。そのためにもやはり自分に厳しく、明るくやらないといけないなというふうに痛感しているところでございます。よろしくご指導いただきたいと思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** あやめまつりも、もう開園式も終わってますんで、こういう天気ばっかり続くと、なかなかまいちだなどというふうに思いますけども、ぜひこういう曇天に負けない、吹き飛ばすような明るさでもって、集客に寄与するように努力をしていただければありがたいなというふうに思います。

2点目の子育て支援の関係についてお聞かせをいただきたいと思っております。

この問題は、私も長井市も合併を模索したわけですが、いずれも破綻をしまして自立をせざるを得ないという状況に立ち入りました。

これまでの質疑の中で目黒市長との間で長井市の自立の定義というものについては、「人件費を賄って、投資的経費を賄うことが長井市の一つの自立の目指すべきものだ」というふうに答弁をいただいているわけですが、やっぱりこの自立が可能か可能でないかというのは、一番の基礎になるのは、財政基盤の確立とかいうことでもありますけれども、私は人口減少にいかにか歯どめをかけていくかということではないのかなと思うんです。これがじり貧になって、どんどん減っていったら、自立もへったくれ

もないんじゃないかというように思います。

今、どこの自治体も自立という言葉と、それから少子化対策、子育て支援ということを異口同音に言ってるわけですが、やっぱり全国の中では、非常にユニークで見るべき点、あるいは先進的な取り組みをなさってる自治体が多くあるわけですね。そのことについて何かお聞かせをいただきたいと思います。

まず最初に、これは日本一子育てしやすい市はということで、いろいろ調べましたら、こういうのが出てきました。東洋経済新聞社がこのほど発表した全都市子育て指標で、尾花沢市が18位にランクされた。経済企画庁の新国民生活指標、豊かさ指標など自治体ランキングには自治体から異論が出ているが、都市の子育てランキングがまとまったのは初めてだと。子育て中の若い夫婦などの関心を集めそうだというふうにあります。

子育て指標は、就学前の児童に焦点を当て、全国671市と東京23区の計694市区を対象に、環境充実度、施設充実度などを判定、児童1人当たりの児童関連福祉支出、乳幼児1人当たりの延長保育施設など、関連9指標を抽出し、指標化した。

総合では、長野県飯山市、あの豪雪の名高い飯山市が日本一に輝き、次いで千代田区、中野市、これは長野県です。それから光市、山口の順になっているそうです。地域別では、北陸、中部、東海が上位を占めた。本県では尾花沢市の18位が最高で、環境充実度という点にしましては、尾花沢市が6位、村山市が16位、寒河江市20位、東根市が25位、長井市が26位、そして南陽市が29位と、上位30都市に本県から6市が入ったというふうになってますね。環境という点では大変いいと。しかし反面、施設充実度では、上位30市内には1市もランキングされなかった。全国の環境充実度では、石垣市、平良市、浦添市、糸満市、これは沖縄です。平戸市、

長崎、上位4市までが沖縄県が占めたと。施設充実度では光市がトップ、金沢市、千代田区、土佐市、須崎市と続いたと。

毎年公表している全都市住みよきランキングでは、671市、東京23区、672市区を対象としたと。総合評価で本県は新庄市の33位が最高だったと。山形市が87位。項目別では、利便度で新庄市が6位、快適度で村山市が30位、住環境充実度で尾花沢市が5位、村山市が6位、寒河江市が23位、長井市が26位、南陽市が28位というふうになっていたそうです。

あ、そうかなというふうに思っているわけですが、ここで一つ、長野県の下篠村という事例が今、脚光を浴びております。

「女性セブン」という本があるんですが、そこで7ページを割いて特集を組んだんですね。その前に「女性自身」にも取り上げられておりますんで、もしかすると見られた方もいらっしゃるかと思います。

この下篠村の取り組み事例について、福祉事務所長に調べていただくようにお話ししてありますので、それをちょっと紹介いただけますか。

○**渋谷佐輔委員長** 平 英一福祉事務所長。

○**平 英一福祉事務所長** 蒲生委員の方からお話をいただきまして、急遽調べさせていただいたところであります。

下篠村、長野県の南はじの方に位置しております。飯田市とひつついております。あとは愛知県との境のような場所にある町でございます。人口が4,200人でございます。

一番注目されておるのが、出生率が1.97という高い数字を示しております。特徴的に村の方で取り組んでおられる事業ということで、若者定住促進住宅という建物を1990年から建て始めまして、8棟、100戸つくったそうでございます。部屋につきましては2LDK、63平米でございます。家賃が大体市場の半分ぐらいの値段で3万6,000円だそうでございます。

これは一つには、ここの町が人口がそもそも65年ごろに4,500人規模の村であったと、それが91年ごろに3,800人まで落ち込んできておりまして、それを何とか回復したいということで、2005年にこういった施策が功を奏して4,200人まで回復したというような数字でございます。

それともう一つ、2004年から中学3年生までの医療費を無料化にしておるといふうなことでございまして、全人口に占める若年、14歳までになりますけれども、その割合が17%ということでもあります。これは長野県一の数字だといふうなことでございます。

それとまた、いろんな取り組みなさっておられますようで、結婚につきましても、村独自取り組んで奨励しているようでございまして、下篠村の公営結婚というのがあるそうでございます。これが建物を提供するばかりでなくて、運営委員会とか、そういった仲人さんみたいなこともやられまして、結婚式を取り仕切るといふことで、その結婚式も会費制で1人5,000円というようなことでやっておれるということでもあります。

あとは、そのほか村の自慢としましては、国会議員を4人ほど輩出されておると。それと県会議員も6人ほど出ておられる。

それから、先ほどの村営の結婚式では、300組ほど、昭和52年からですけれども、達成なされておると。それとタレントの峰竜太という人がおりますけれども、その方の出身地でございまして、写真に出ておりましたが、国道沿いに大きく看板を上げまして、村のPRにも協力しているといふうなことでございます。それと、これ日本一になるのではないかと感じておりましたが、男性の平均寿命が80.1歳だということでございます。

それと、いろんな取り組みなさっておりまして、財政的には起債制限比率が1.4という非常に小さい数字、財政の健全化を示しているとい

うようなことであります。大体このようなことであります。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 私の前に佐々木謙二委員から起債制限比率19.9という話が出たばかりですのですね、この下篠村が1.4だというのは驚きだなと私は思うんですね。

そのほかに、この村長さんは役場の職員の意識改革、いわゆるお役所仕事と言われ、スローモーションな仕事ぶりの一掃をしたと。厳しい民間企業へ職員全員を研修に出しました。職員研修については大道寺信議員からもいろいろご指摘があったと思うんですが、厳しい民間企業へ職員全員研修に出しました。意識が変わると、職員はそんなに要りません。最大59人いた職員が今では37人、類似団体の56%だそうです。

やっぱりトップのリーダー性といいますか、そういったものが非常に大事なんだなということをごここでは物語っているんじゃないかなといふうに感じます。

この若者定住対策として若者定住促進住宅、これを8棟、100戸分建設して、2LDK、63.58平方メートルですから、広いですよ。これで3万6,000円、民間アパートの約半分。こういったことで子育て支援をして出生率が1.97でしたっけ、になったということなんですけどね。

こういう数字をお聞きになって、市長、いかがですか。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** 率直に言って、地方自治体で非常に頑張っている方が多いのと、まだまだだなと、それから学ぶことが多いというのが、まず第一であります。

若者定住促進住宅というの、いいところに目をつけられたと思うんですね。実は私のところにも、結婚したときには夫婦だけでいいもんだから、民間の2DKぐらいで5万5,000円ぐ



らいに入ると、きれいなところに。全部含めると6万5,000円ぐらいかかるんだと、電気、水道とか。子供が1人できちゃうと、部屋は途端に狭くなるし、その後、6万5,000円というのは猛烈に負担になってくると。しかも共稼ぎしてたのを、夫婦2人ですとやっぱりとりあえずやめなきゃいけないと。十五、六万の男の収入だけであれなので、住宅が一番困るんだと、こういう話なんですわね。

ところが、長井なんかもそうなんですわ、市営アパートになりますと、いわゆる離婚された女性の方の優先なんですわ、やっぱり。結局収入が表向き少ないんです。結構、後ろでじいちゃん、ばあちゃんなんかが応援していらっしゃるんだと思うんですが、やっぱり離婚された女性の方が一番収入が少ないというんで、そっちが優先になって、よそからもそういう方がおいでになって、「長井の市営住宅に若いのが入れないというのが随分あるぞ」というふうな指摘がありました。これをあれでしょ、下篠村はうまく考えて、だからもし長井でまず考えられるとすれば、市営住宅の1戸建てみたいなのをやっぱり何階建てかにして、今まで入ってる人はそこに入れて、あとその上の部分は若い子育ての皆さんに開放していくというようなことも、これはやっぱり考えなきゃいけないのかなというふうに、この話を聞いて思ったところです。

たしか東京とかの日の出町なんかもそういう、子育ての皆さんの単なる保育園のあれなんというのは何千円規模だけども、3万円、4万円違っちゃうと、住宅で。こういうのが一つ大きいよという話もありましたので、各地で頑張っていらっしゃるんだなというふうに思いました。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 出生率ナンバーワンどこかということで調べておりましたら、和泊町が出てくるんですね。13年には2.58ですよ。今は

2.42で全国6位だそうですよ。目黒区だけが0.83とかって言っていましたね。こういう和泊が何でこんなに子供が生まれるのか、環境がいいだけじゃないんだろと思いますが、これも福祉事務所に聞いていただいたんです、直接電話して。でもあんまり決め手になるような答弁がないんですね。そういう地域柄というように言ってしまうばそれきりなんですけれども、こういうところもあるんだと、今どき2.5人の出生率の数字を示す得る地域があるということだと思います。

ぜひ長井市でも、まず2.0を上回る施策を講じるということが大事だと思いますんで、出産したときの一時金とか乳幼児医療、例えば一過性の手当の支給だけではやっぱり子育て支援にはつながらないんじゃないかと。それはそれでいいですよ。いいんですけども、それは点なんですわね。やっぱり線、面でつないでいかないと、やっぱりここで産み育てるというふうにはなっていないかと思えますけれども、実践している自治体が、そういう事例があるということ踏まえて、ぜひこれからも検討していただきたいなというふうに思います。

それから、これは千葉市の事例なんですけれども、エンゼルヘルパー派遣事業というのがございまして、ここも何かいろいろやってるんですよ。保育ママとかね。保育ママとは、保育士等の資格を持った保育ママが仕事や疾病等の理由でお子さんの保育ができない保護者にかわり、保育ママの自宅で家庭的な雰囲気の中で少人数をお預かりして保育する制度なんだそうです。それから例えばひとり親の方などのためにとい

+

う制度だとか、さまざま見るべきものがこの千葉市の事例でもございます。これ一遍一遍言っていると長くなりますからですが。

それから、これは北九州市でしたかね、日本一の子育てしやすい町を目指そうという「NPO法人北九州子育て・親育ちエンパワメントセンター」というところなんです、つまりどうということかといいますと、結局日本一の子育てしやすい地域を目指そうということでNPO団体が活動しているという事例です。

こういうさまざまな事例をやっぴり参考にしながら、長井というこの地域に合う子育て支援策は何かということについて、やっぱり考えていかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思うんですけれども。一方では、民間企業の参入がまた出てきております。

皆さんもご存じなんです、コムスンという大手の企業ですよ。ここでベビーシッター事業というのを手広くやっております、これ全国で物すごい数が今広がっております。民間はやっぱりこれから子育て支援に関する事業を民間の事業として着手してるという、着目してるということですよ。これはやっぱり検討していかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思いますね。

新聞記事の中でも、いろいろ指摘してます。これは6月1日の読売新聞ですが、ゼロから2歳児までの手当増額すると、企業の育児支援公開だとかいろいろ言ってますが、やっぱりこれだけではだめというように結びがあるんですよ。

これは朝日新聞の記事ですが、これは教育長にお聞きしたいんですが、例えば子供の犯罪被害がふえる中で、親は小学生を児童を放課後に一人にできない不安を抱えている。小学校を預かる学童保育やベビーシッターの費用負担は深刻だ。また、子育てがづらい理由として長期的な教育負担を上げる親が多い。教育費の負担で

す。安価で、しかも質の高い公教育の充実が課題だというようにあります。

実は厚生常任委員会で7月10日から北海道の三笠市というところに行くんですが、人口1万2,000人ぐらいの小さい市ですが、小学生全員を対象にして給食費無料にしたんですね、全国で初めてというのがあるんですね。

今申し上げた、この子供の犯罪被害がふえる中で、親は小学生の児童一人にできない不安を抱えているというような問題含めて、教育長として子育て支援でどういうことが考えられるか、考えてることがあればお聞かせください。

○**渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長。

○**大滝昌利教育長** 教育費の負担の問題ですね、これは今、長井市内の小学生は年間恐らく学校徴収金として8万円前後かな、中学生で13万円前後の徴収金があると思います。

この前の新聞ですと、児童手当が3年生から6年生まで引き上げられたと、また親の収入の限度額が引き上げられたということで、第2子までは5,000円ですか、月額。そうすると年間6万円ぐらい、若干そういうふうな手当の面もあるわけで、経費の面では非常に大変だという方もおられると思いますが、普通の家庭であればそれほどないのかなと。給食費については、月四、五千円ぐらいですから、その辺の負担なんかしていただければ一番いいわけですけども、それよりも何よりも、やっぱり親が働きに出ている時間帯の子供の安全安心をどう守るか。今、核家族の時代ですので、そういうふうに親が帰るまでの子供のその時間帯がやっぱり心配だという方はおられると思います。そういう面で、学童保育とかなんか、そういう面の親が帰るまでの時間帯の充実を図っていくことは必要かなというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 意外と平凡な答弁、ありがとうございます。

学童クラブ、これ非常に需要が高くなってまして、これからもその需要は私は伸びると思うんですよね。

財政課長にお願いしておきますけども、定員50人で打ち切りだなので、そういうこそくな考えをしないで、やっぱり希望者は全部受け入れるということが大事だと思いますんで、ひとつよろしく願いしておきたいと思います。

それから、これは5月27日、朝日新聞の記事にあつて、憂うべきものなんです、「妊娠したらやめてと会社」、妊娠したらもう会社、雇用契約しませんよと、こういう事例なんです。「妊娠したら会社をやめてほしい、こんなことを会社側から要求された女性労働者の相談件数がふえてることが、山形労働局のまとめでわかった。男女雇用機会均等法では、第8条で妊娠を理由に解雇することを禁じており、同労働局はこのような退職勧奨は明らかな法律違反、一人で悩まず相談してほしいと話している」というようなことで続けております。

特に臨時社員、職員の場合は、年間を通して雇用することは非常にそれは難しいですから、1年ごとの更新をするわけですよね。妊娠をすると、更新をしないで事実上、雇用状況を解約するというのがあちこちで見受けられます。これは事例として幾つもあります。こういった事例については、前の商工観光課長に市内の企業の中にそういう実態がどの程度あるのか、調べられる範囲で調べてほしいというふうに申し上げておきました。

きょう、これは通告外のことですんで聞きませんけれども、ぜひ引き継ぎなさっておられると思いますので、実態についてできる限りの把握をしていただければなというふうに思います。

とにかく少子化対策については、いろいろたわれておりますが、いずれにしても、難しいと、決め手になることがなくて難しいというのが異口同音の考えですよ。ですから、やっぱ

りここはひとつ知恵比べだと思いますが、私はまず、長井市の中でどこから始めたらいいかということを考えてるわけですが、子供のことについて、この窓口に来ればすべてわかるよと、すべてというのは無理かもしれませんが、ほとんどのことについてはわかるという、まず組織が必要なんじゃないかなというようにずっとかねがね考えてまして、長井市の中に子供課を設置したらどうだというように思っておりますが、そこら辺の認識について、市長の考えを伺います。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** 子供のことにすべてわかるというのは、例えば健康課でも母子手帳を出しているとか、それから予防接種等もあるとか、それから医療費等はどうか、福祉事務所では子育て支援センターをやっているとか、こういうふうになつてくるんですよ。

子供課というまでしたら、行財政改革でいえばスクラップ・アンド・ビルドですから、ほかで削らなければ課はどんどんふえていくというやつの一つになると、それは困るわけですから。

私は、子供係というのを、どこに設けるのか、健康課とか福祉事務所とか、あるいは教育委員会ですらどうかという説もあるかもしれませんが、それで子供課といつても、二、三人でやつてるといふ事例もあるわけですから、やっぱりそこにまず係にひとつ、ある程度情報を集約して、そこに相談に行ってもらつてというようなことかなのではないかと。いずれにしても、この子育ては、従来の課のあれ見ると、随分課の枠を超えてありますよ。ですから、少子化対策プロジェクトであるとか、少子化委員会であるとかいふように、庁内のあれを各課にあるやつを統合していくと、そしてそこで知恵を出していくということは必要だと思いますが、課の設置まではやっぱり行革との関係で今のところは考えていないと。

+

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 課を考えるかどうかは別としまして、子育て支援、いわゆる少子化対策、人口減少に歯どめをかけるというその問題ですね。これをどの程度考えるかだと思うんですよ。

今、市長がおっしゃるように、乳幼児医療とかそういったものは市民課に行かなきゃいけない、それで保育園だとかなんとかといえども今度は福祉事務所だと、小学校の教育の関係は教育委員会だと、もう全部にまたがってるじゃないですか。そうすると、あっちへ行ったりこっちへ行ったりしながらやっていくと。これを例えばそこに行けば、もう少し整理されて、すべてそこで解決するというにはならないかもしれませんけれども、もっともっと問題が早く解決するような仕組みをつくるのかということはどうできるんじゃないかと。

子供課をつくっている自治体というのは珍しくないんですよ。ありますんで、どういうふうにしむけていけばいいのか、ここですぐつくるなんていう話にはならないでしょうから、前後のことも含めてご検討いただきたいというふうに思います。

子育て対策の関係なんですけど、予算的なものですね。私は今、確かに児童手当の拡充だとかいろいろありますけれども、やっぱりそういう国、県の制度だけじゃなくて、長井市独自の制度として思い切った予算措置をしていくべきじゃないかというふうに思います。といっても、限られた中からそれだけに、子育て支援のために5,000万円をとるとするのはなかなか難しいと思うんですよ。

ですから、一つの目的を持った取り組みをすることで、それが可能なんじゃないかと。例えば行財政改革を一生懸命やって、そこで出た効果額を子育て支援に回していくというふうにまず考えてみるのはどうかと。例えばはなぞの保育園が今度、社会福祉協議会に移りましたよね。

従前のおりやっていたら幾らかかると、今はこれだけで済んでるとするのは、それは確かに効果としてあらわれる数字じゃないんでしょうかね。そういったものを子育て支援の方に回していくというふうな考えはいかがですか。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** これも、蒲生委員、率直に答弁させていただきますと、行財政改革をするというのは、それは政策経費を、要望にこたえるためにやっぱりやらざるを得ない。そうしなかったらとても生き延びられないというか、そういうものですから、そういう経費を生み出すというためにはありますが、全体的なやっぱり政策経費を生み出すということなのではないかと。そうすることが行革の本当の目的でありまして、子育てにそれが全部行ってしまというのは、それは目的税も超えて、いろんな要望あるわけですから、はっきり言って。それはやっぱり単純に、「はい、わかりました」というふうにはいかない。

私は非常に重要な問題だとは思っていますが、福祉予算の中からやっぱり少しシフトしていくとか、全体の予算の中で子育てにシフトして集中していくと。

それから、この間、NHKでも、白石真澄さんなんかが出てたあれを見てますと、メニューは大体そろってきたと、しかし、地域ごとに違っていると。下籾村のように住宅で特色を出しているところもあれば、いろんなやり方があるということですから、長井市の特徴的なところは、3つなら3つ、1つなら1つやって、それに全体的な予算は少しシフトしていくということだと思いますが、行革で余った分を全部子育てというふうには言えないと思っています。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 行革で生み出したものを全部なんて、私は一言も言ってませんで、いろんなことやってんじゃないですか、行革の中で

はね。

特に子供、子育てにかかわる部分では例えばということで申し上げたんですが、はなぞの保育園の社会福祉協議会に委託することによって生み出したものについては、別の事業の子育て支援に回してはどうだと。そのほかにもいろいろやってるわけでしょ、行革はね。それは全体的にやっぱり効率、めり張りをつけた使い道を決めていけばいいわけでして、どういう形でもいいですが、子育て支援という名に恥じない施策と財政的な裏づけを考えていかない限り、長井市の人口は、人口動態の予測どおり、30年後には2万3,000人切りますよ。これではやっぱり自立もへったくれもないんじゃないかと、私、危機感持ってますんで、やっぱりいろいろ考えていくべきでないかと、具体的に考えていくべきでないかと。

目黒市長のとりあえずの任期が12月14日までですか、その間にひとつ答申案をまとめればいいじゃないですか。そのぐらいのことはできるんじゃないですか。何もかにもというわけにはいかないでしょうけれども、ひとつ次に一番大きい問題を引き継いでいくという点については、この子育て支援策というのは非常に大事な部分だと思いますけどね。もう一度、答弁お願いします。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** さっきも佐々木委員から任期中にとかって言われましてね、そういうふうに分けると、もうあと6カ月ですから、どれぐらいできるかということについては、努力をしますということになると思いますが、子育て支援については、あるいは少子化対策というのは、これから非常に重要だと、そしてその予算もやっぱり選択と集中でシフトしていくべき課題だというふうに思っておりますから、そういった面で、なお優先順位等も考えながら、こちらに力を入れていきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** いわゆる幼保一元化のことで、例えば認定こども園なんてことがありますが、福祉事務所に伺いたしますけれども、この制度、どのような認識を持っておられますか。

私は非常に大事だなと思ってるんですよ。つまりお子さん1人しかいなければまだいいんですが、2人がいて、2つぐらいしか離れてないと仮に仮定しますよね、そうしますと保育園とその上というふうになりますから、2つの施設をまたがなきゃいけないという、それが幼保一元化の場合だと同じ施設で間に合うというふうなことが、今現在も事例としてはございます。やはり親にとってはありがたい話なんですけど、それは福祉事務所長としていかがでしょうか。何か記事によりますと、この関連法が成立しておりますけれどもね。いかがですか。

○**渋谷佐輔委員長** 平 英一福祉事務所長。

○**平 英一福祉事務所長** お答え申し上げます。

ゼロから5歳の就学前の児童に対して幼児教育と保育サービスを一体的に提供する施設ということで、認定こども園というのが10月1日から施行されることになっております。

情報によりますと、認定候補、これも認定受けるわけなんですけど、候補として全国に1,000カ所程度の施設が今現在あるということでございまして、先ほど蒲生委員の方もおっしゃってございました和泊町、そちらも電話で子育て支援課長さんに聞いたところによれば、保育園が4カ所、幼稚園は3カ所あるそうでございますが、今からこども園の方の組織づくりに向けて子育て支援課の方では動いているというふうな話でございました。

確かに委員おっしゃいますように、去年まで私も教育委員会の方で幼稚園に少し携わっておったところでもございまして、これ一緒になった方がずっと小回りもきくし、やりやすいんだろ

+

うなというふうな感じも持っていました。

世の中の方の動きも、だんだんこういった方が需要が強くなっていくものではないのかなというふうに考えております。以上です。

○**渋谷佐輔委員長** 9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** これによしという決め手になるものは、やっぱりなかなか難しいと思います。

昔は、うちのおやじは12人兄弟で、2腹で12人兄弟なんですね。私は6人で、うちの子供は3人で普通だったんですが、今、本当に子供を産まなくなりましたというか、結婚もしないですよね。うちのも30過ぎて、まだ全然行こうともしませんし、そういう社会環境といいますか、本当にそういうようになってるんですね。だからこれも結婚して、やっぱり2人子供を産むんだというふうに意識改革、改革というか、意識が自然と変わるようになるには、やっぱり本来持ってる母性本能をくすぐるような、あるいはまた、この環境であれば子育てしてみたいなというように思わせるような、そういう施策を長井市がいち早くとることによって、長井市の人口減少に歯どめをかけることができるんじゃないかというように強く感じておりますので、きょうは子育て支援の窓口バージョンということでお聞きしましたがけれども、いろいろご検討をいただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いたします。終わります。

○**渋谷佐輔委員長** 以上で通告による総括質疑は終わりました。

これより各会計補正予算案の細部審査に入ります。

なお、質疑に当たっては、答弁者並びにページ数をお示しの上、お願いたします。

#### 議案第54号 平成18年度長井市一般会計補正予算第1号についての質疑

○**渋谷佐輔委員長** まず、議案第54号の1件について、ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔委員長** 質疑もないので、質疑を終結いたします。

#### 議案第55号 平成18年度長井市公共下水道事業特別会計補正予算第1号についての質疑

○**渋谷佐輔委員長** 次に、議案第55号の1件について、ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔委員長** 質疑もないので、質疑を終結いたします。

#### 議案第56号 平成18年度長井市農業集落排水事業特別会計補正予算第1号についての質疑

○**渋谷佐輔委員長** 次に、議案第56号の1件について、ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔委員長** 質疑もないので、質疑を終結いたします。

#### 議案第57号 平成18年度長井市水道事業会計補正予算第1号についての質疑